



今月の野菜紹介

「そらまめ」

◆播種適期は10月10～20日

そらまめの最適な播種時期は、鳥取の場合は10月10日から20日頃と言われています。

そらまめは、ほかの越冬作物と同じで、大きな株で冬を越すと、寒さによる影響で株が消えてしまうことがある一方で、小さな株だと大きなマメが取れず、収量的にも低下してしまいます。

そのため、播種時期は必ず守るようにします。

◆育苗がいいが、若苗定植がコツ

そらまめは、直接畑に播種して栽培することも出来ますが、そうするとあまり生育が良くないことが知られています。そこで、少し手間はかかりますが、ポットや育苗床で育苗をして苗を植えるのがベストです。

ただその場合、大切なのが定植をする苗のサイズです。そらまめは、播種から発芽までに10日程かかりますが、定植に最適な苗は播種後14日程の葉が展開しか

けている若い苗です。

そらまめは、不思議と葉が数枚展開したよう



な大きい苗を植えると、畑に定植をしてから徒長気味に生育し、ヒョロつとした弱い株になり、冬越しも弱くなります。一方で、若い苗を定植すると、節間が短くずんぐりとした株となり、冬越しにも強くなります。

そのため、そらまめの育苗は、イメージとしては芽出し程度と考え、定植出来そうになれば早めに畑に植えてやるのが大切です。

◆畑の準備は早めに

先にも述べた通り、適期に定植をするのが大切なそらまめですが、芽が出てくるまでは10日程必要なのですが、発芽から定植出来る苗になるのは、ほんの数日です。そのため、天候が悪いと畑の準備が間に合わず、定植適期を逃してしまうというケースが極めて多いのも特徴です。ある程度、スケジュールに余裕を持ちつつ、早めに畑の準備をして、いつでも定植できるようにしておきましょう。

◆年内は生育は抑えめに

先にも述べた通り、越冬作物はある程度小さい株のほうが冬越しには有利です。そのため、そらまめも年内は追肥は



あまりせず、出来るだけ生育を抑えた方がよいといえます。

特に近年は暖冬傾向になっており、年内に降雪が無い年が増え、年内の生育が進みすぎる傾向にあるので、注意をしてください。

知っておきたい病害虫

「赤色斑点病」

【症状】

ソラマメで発生する「赤色斑点病」は、「チヨコレート斑点病」とも呼ばれ、その名の通り、赤褐色の小斑点を生じる病気です。

病気が進むと病斑はさらに拡大して、

直径1～2mmで

周辺が明瞭な濃褐色の斑点となり、激しく発病した場合は病斑通しが融合していきま



葉や茎の発生

はそれほど大きな収量低下にはつながりませんが、莢に発生すると品質が低下して等級が落ちる原因となるので、出荷販売を目的とした場合は対策が重要です。



【主な対策】

- 3月以降はほぼ発生する病気と見て、他の病害と合わせて予防防除に努める。
- ジマンタイセン水剤(さび病・輪紋病登録)
- 発生後は治療剤に変えて防除を行う。
- ロブラール水和剤
- ファンタジスタ顆粒水和剤 など

※適用内容は品目によって異なりますので確認の上、使用してください。